

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 神戸市

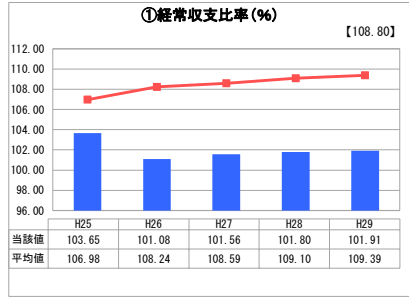
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	政令市等	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	76.16	97.71	95.29	1,566

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,542,935	557.02	2,769.98
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,502,465	170.25	8,825.05

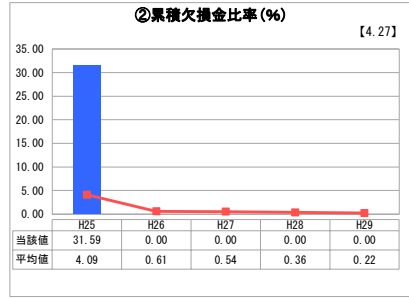
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

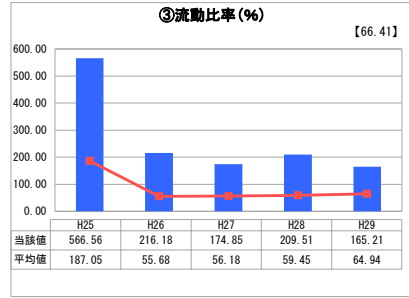
## 1. 経営の健全性・効率性



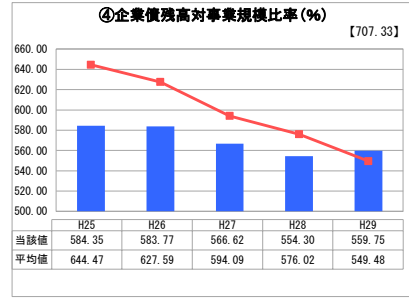
「経常損益」



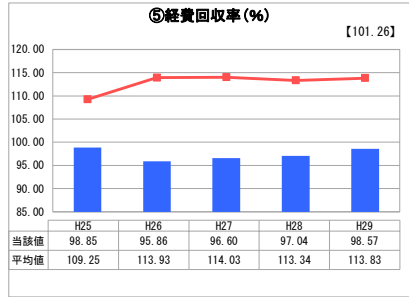
「累積欠損」



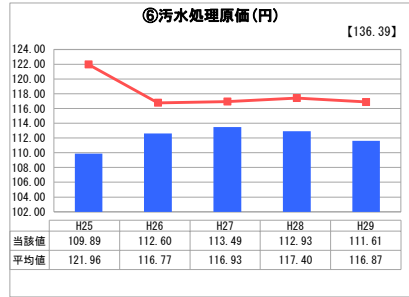
「支払能力」



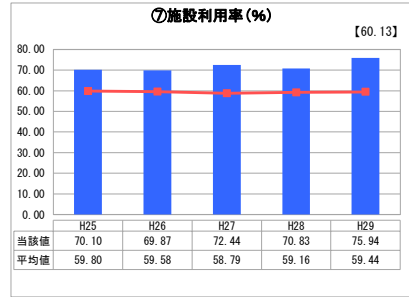
「債務残高」



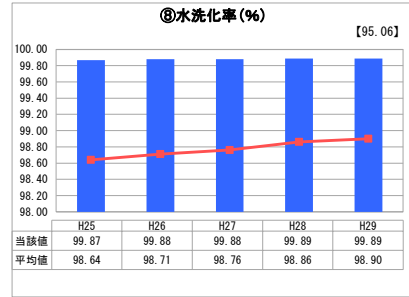
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

## 分析欄

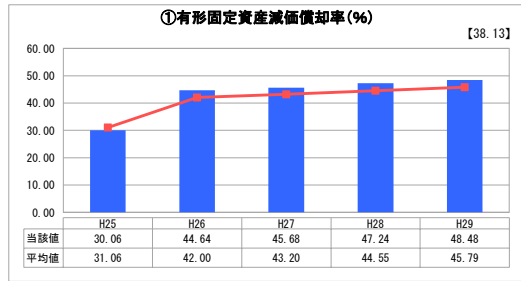
### 1. 経営の健全性・効率性について

①は、類似団体平均をやや下回っているが、100%は超えている。施設の老朽化が進む中、今後更なる改築更新が必要であることから、引き続き経営の効率化を進めていく。  
 ②は、平成26年度の会計制度の見直しにより、黒字決算となったため、累積欠損金が0となっている。  
 ③は、平成26年度の会計制度の見直しにより減少しているが、現預金を十分に確保しており、類似団体平均よりも高く十分な支払能力がある状態である。  
 ④は、これまで企業債残高の削減に取り組んできたため、減少傾向にあるが、平成29年度は、施設の老朽化による改築更新事業の増加に伴い、類似団体平均よりもやや上回っている。  
 ⑤は、100%を下回っており、回収すべき経費を使用料で十分に賄っていない状態にある。使用料体系および適正な水準について検討を進めており、今後も経営の改善を図っていく。  
 ⑥は、これまでの維持管理の効率化により、類似団体平均よりもやや下回っている。今後も維持管理の効率化を行っていく。  
 ⑦は類似団体平均よりも高く、概ね適切な施設規模と考えられる。  
 ⑧水洗化を助成する制度を活用するなどにより、概ね100%に近い数値となっている。

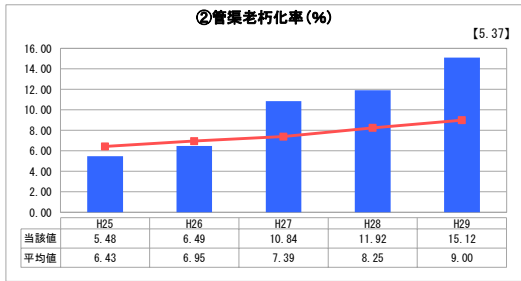
### 2. 老朽化の状況について

①については、平成26年度の会計制度見直しによるみなし償却制度の廃止により、減価償却費累計額が増加したことにより、大幅に増加している。  
 ②、③については、昭和40年代後半に集中的に整備した管きよの老朽化が進んでおり、法定耐用年数を超える管きよが今後増加していく。そのため、事業費の平準化を図りながら、改築更新のペースを加速させていく。

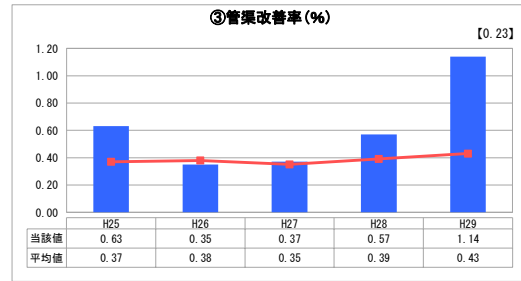
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 全体総括

類似団体との比較により、⑤の経費回収率がやや低い状況にある。今後、下水道使用料収入が減少傾向にある一方で、老朽化した施設の改築更新に伴う費用が増加するため、使用料体系および適正な水準について検討を進めていくとともに、今後予定している経営戦略の策定もふまえ、引き続き経営のより一層の効率化を図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。